

# 野菜はどこからやってきた？

私たちが毎日おいしく食べている野菜。

でも、日本原産のもの(日本にもともとあったもの)はウド、フキ、ミツバ、セリなど、少ししかないそうです。

では、今の野菜はどこで生まれて、いつ頃から日本で食べられているのでしょうか？

## ● けっこう<sup>ふる</sup>古い<sup>れきし</sup>レタスの歴史

原産地は、中国、インドから地中海地域。

日本へは中国から伝わり、もう平安時代には

「ちしゃ」とよばれて栽培され、

煮て食べられていたそうです。

生で食べる、玉のようになる種類が

日本に来たのは明治時代。

でも、味噌汁やおでんの具として、

昔のように加熱して食べる地域は今も多いとか。



## ● キャベツはヨーロッパ生まれ。

原産地は、ヨーロッパの地中海や大西洋の沿岸。

現在の玉のようになるキャベツが

日本にやってきたのは明治時代だそうです。

ヨーロッパでは煮て食べますが、

日本では生でも食べます。

これは明治の中頃に、

銀座の洋食屋さんが

カツレツに生のキャベツの千切りを

そえて人気

出たからなんだって！



野菜は日本にやって来てからも、いろいろな品種改良がされてきたんだよ！



今、おいしくて安全な野菜が食べられるのは、人々が昔から努力してきたおかげなんだね！

## ● うわさ<sup>にんき</sup>で人気が出たタマネギ。

原産地は中央アジアで、16世紀ヨーロッパ全体に広まり、

日本へは明治時代に

アメリカからやってきたそうです。

最初は人気がなかったけれど、

その後、コレラに効く(?)という

うわさがたったことから

食べられるようになり、

そのおいしさがみんなに

広まったそうです。おもしろいね！



## ● 嫌<sup>きら</sup>われていたキュウリ。

原産地は、ヒマラヤ山ろくあたり。

6世紀ごろに中国から日本にやって来ましたが、

栽培されるようになったのは17世紀ごろ。

ただ、昔はかなり苦かったようで、

江戸時代の学者は

「おいしくないし、少し毒もある」と

書いています(※)。

明治時代以降に品種改良が

進んでおいしくなりました。

※貝原益軒「菜譜」(かいばらえっけん「さいふ」)より

